

平成 22 年 4 月 19 日現在

研究種目：若手（B）
研究期間：2007～2011
課題番号：19720160
研究課題名（和文） 畿内および周辺地域における守護系戦国大名関係史料の網羅的収集とその帰納的研究

研究代表者

村井 祐樹（MURAI YUUKI）
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：20323660

研究分野：
科研費の分科・細目：
キーワード：

1. 研究計画の概要

本研究においては、
(1)守護系戦国大名の典型たる佐々木六角氏の関係史料を網羅的に収集・蓄積し、それらを翻刻・活字化・校訂・整理し、帰納的に分析することで、大名権力像を明らかにすることを目的としたい。そのためには、上述のように、前提作業として多様な史料を収集・蓄積すると同時に、それらを有効利用するための効率的な整理方法を検討することが不可欠であり、その方策も探って行きたい。すなわち、細目録情報・書誌情報・フルテキスト等の史料から抽出しうる諸情報をデジタルデータ化し、その上で、申請者の職場である史料編纂所の有する諸データベースと有機的に連絡を図る方策の構築を目指したい。
(2)一方で対象とする史料は、同族である佐々木京極氏や佐々木尼子氏、同じ畿内周辺地域の守護系戦国大名たる赤松氏等にも可能な限り目配りをし、近江＝滋賀県のみならず、畿内周辺地域、佐々木氏関係史料の多くのこる中国地方、また近世に入り江戸幕府により集められた古文書集等（内閣文庫・国会図書館所蔵）収載史料をも視野に入れて、広く積極的に収集し、比較検討することとしたい。

2. 研究の進捗状況

(1)当初目標としていた、佐々木六角氏関係史料の網羅的収集および蓄積をほぼ予定通り進めることができた。2007～09 年度における史料調査件数は、75 件また調査先も畿内近国を中心に 1 都 2 府 1 1 県におよんだ。そ

してそれら調査史料をマイクロカメラによって撮影し、フィルムおよび書誌データの蓄積を行うことができた。また、それら収集史料と他の蓄積史料を全文テキストデータ化し、『戦国遺文 佐々木六角氏編』を刊行することができた。
(2)また、(1)で述べたように、調査対象も佐々木六角氏のみに限ることなく、畿内周辺地域（岐阜県・兵庫県・徳島県）や中国地方（岡山県・広島県・島根県）等広範囲に目を配り、史料収集を行った。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。
(理由)

当初の予定では、4 年目で刊行する予定で、本研究の最大の目的であった佐々木六角氏関係史料集たる『戦国遺文』を、3 年目において出版できたため。またそのための史料調査も、関係各位の御協力により予想以上に進展させることができたため。

4. 今後の研究の推進方策

3 年目まででほぼ全ての佐々木六角氏関係史料を収集、出版することができたものの、この手の史料集の常として、新発見史料や見落としを免れない。また出版物が公にされたことで、未知の史料をご教示いただける可能性も格段に大きくなった。今後は、新発見史料の補充調査と共に、比較対象としての、他の守護系戦国大名関係史料の調査・撮影を行いたい。対象地域は、畿内近国を中心としつつも、中国・四国地方にも目を向けていくこ

ととなろう。

また、当初計画にも書いた、データベース化に向けた本格的な検討・準備をすすめることになる。この点については、既に情報学の専門家よりアドバイスをいただいております、出版社との協議が済めば、具体的な行動に移れる段階にある。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 井上聡・村井祐樹、萩博物館寄託「杉家文書」、萩博物館紀要、3、1-21、2008年、無。
- ② 村井祐樹、東京大学史料編纂所所蔵影写本「兼右卿記」(上)、東京大学史料編纂所研究紀要、18、119-154、2008年、無。
- ③ 村井祐樹、戦国期佐々木六角氏家臣名の再比定、日本歴史、735、85-88、2009年、有。
- ④ 村井祐樹、東京大学史料編纂所所蔵影写本「兼右卿記」(下)、東京大学史料編纂所研究紀要、20、112-137、2010年、無。

[図書] (計1件)

- ① 村井祐樹、『戦国遺文 佐々木六角氏編』(東京堂出版、2009年)、417ページ。

[その他]

ホームページ：
<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/murai/newpage1.html>